

お知らせ

■基幹種雄牛「勝忠安福（かつただやすふく）」がデビューしました



写真 名 号：勝忠安福
生産者：石井利行氏（石川郡古殿町）
生年月日：平成24年6月28日

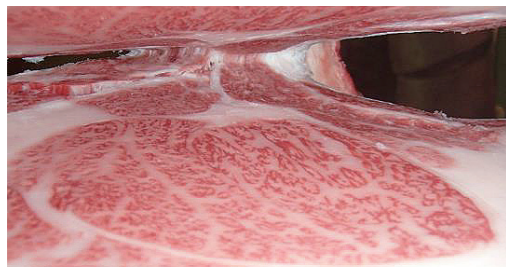


写真 勝忠安福産子の枝肉切開面（ロース部）
血統：勝忠安福×北平安×第5年福
BMS.No.10

平成29年9月、宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会第8区（若雄後代検定牛群）において、東日本勢で第1位に輝いた「勝忠安福」が、本年9月、満を持して「基幹種雄牛」に認定されました。

平成28年8月～平成30年7月にわたり実施された現場後代検定の成績は、これまでの歴代の基幹種雄牛と比較し、枝肉6形質中5形質が最高であり、とくに霜降り度合いを12段階で表すBMS（Beef Marbling Standard、脂肪交雑を評価するための基準。1～12の数値で評価され、No.12が最良値）値の平均は、8.8（A5ランクは、8以上が必要）と抜群の成績となっており、福島牛の高い肉質の維持と評価向上につながるものと大きく期待されます。

また、「勝忠安福」は、おいしい牛肉の肉質指標とされる遺伝子型を有していることから、口当たりの良さやジューシーさなど食味の向上も期待されます。

■トルコギキョウを栽培してみませんか？

切り花のトルコギキョウは、花束やアレンジメントの他、婚礼や仏花の花材として幅広く用いられています。パイプハウス等の施設を活用して栽培してみませんか。

【栽培概要】

播種	定植	開花	目標収量（10a）	所得（10a）
2～3月	4～6月	8～9月	24,000本	90万円



農業振興普及部では、土壌分析による施肥設計や栽培技術に関する支援を行っています。栽培してみたいという方は、経営支援課 長谷川（024-935-1321）までご相談ください。

■各種研修会にぜひご参加ください！

■『郡山梨塾』

定年帰農や親元就農等でナシ栽培を始める方を対象に、「郡山梨塾」を開催しています。

【今後の予定】

第4回 ナシの剪定について（12月15日）
第5回 経営・税務管理について（2月1日）
詳しくは経営支援課 木幡
（024-935-1321）までお問い合わせください。

■スキルアップセミナー（土づくりについて）

「郡山農研ネットワーク」では、土づくりの専門家・土壌医1級の講師を招き、セミナーを開催します。

日時：平成30年12月12日（水）13：00～
場所：郡山合同庁舎3階第1会議室
（郡山市麓山1丁目1番1号）

対象：会員ほか、郡山市内の意欲ある農業者
申込：農業振興普及部地域農業推進課 古閑
（024-935-1310）までご連絡ください。

AGRICULTURAL MAGAZINE
郡山普及だより
Yes! 農!!
No.63 2018.11
発行：県中農林事務所農業振興普及部
住所：〒963-8540 郡山市麓山1-1-1
TEL 024-935-1310 FAX：024-935-7030

祝 福島県農業賞受賞 小山忠義・忍御夫妻（郡山市湖南町）



平成30年9月7日（金）に杉妻会館（福島市）において第59回福島県農業賞表彰式が開催され、湖南町の小山忠義・忍御夫妻が県農業賞を受賞されました。本賞の受賞者は、本県の農業分野で最高峰の技術を持つ「農業十傑」とされています。

御夫妻は、農地を集積しながら経営規模を拡大し、現在は水稲7ha、野菜4haの複合経営に取り組んでいます。

標高約1,000mを超える高原地帯である布引高原で、夏でも冷涼な気候、排水良好な土壌、高原特有の霧による適度な水分などの地の利をいかした、ダイコン・キャベツ・ニンジン等の栽培に取り組んでおり、特に年末の出荷量は地域生産者の中でトップクラスを誇ります。

また、ダイコン・キャベツ・ニンジン等を雪室に貯蔵し「雪下野菜」として販売を行っています。雪室の適度な湿度と低温の中で貯蔵された野菜は甘みが増し、消費者から好評を得ています。

加えて、平成22年からはJA福島さくら郡山地区ファーマーズマーケット部会長として、生産者と直売所の調整役を担うほか、平成24年からは県指導農業士として地域の若手就農者への積極的な栽培技術の継承にも御尽力されています。

各種実証事業の紹介

水稲 水田メガファームモデル事業について

郡山市日和田町で展開中の郡山地域水田メガファームモデル事業では、ICTを活用したほ場管理システムや低コスト栽培技術を組み合わせながら、大規模経営体育成に向けた実証を行っています。実証の結果、ほ場管理システムを活用することで従業員間での効率的な作業確認が可能となり、GAPの取組にも有効であることが分かりました。

また、高密度播種育苗技術や直進キープ田植え機等の新技術導入により、資材費の削減や作業の軽労化を図ることが可能となりました。

今後は、収穫時に測定する水稲の収量や玄米成分など作物情報を分析し、増収や品質向上に向けた各種技術の効果について検討を行います。

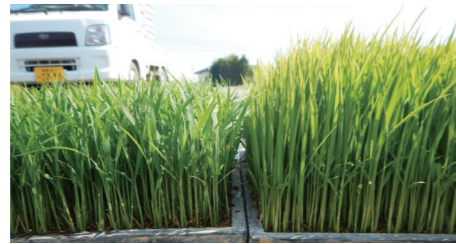


写真 慣行苗(左)と高密度播種育苗苗(右)



写真 直進キープ田植え機を活用した移植作業

野菜 加工サツマイモの高性能機械の導入実証について

郡山市西田町鬼生田地区の加工サツマイモほ場において、高性能機械を利用した現地実証事業を実施しています。5月に行った定植機械による現地実証では、手植えの3分の1の時間で植付けができることがわかりました。10月29日には、かんしょ収穫機による作業実証を行いました。参加者からは、「座って作業ができるのは楽で良い。」との感想が出されました。今後は、収量や品質、収益性等を含めた検討を行っていきます。



写真 収穫作業の様子

トピックス

■郡山市産梨がベトナムへ輸出されました！！

JA福島さくら郡山地区梨生産部会では、昨年に引き続き、日本ナシの輸出が行われました。

8月8日～9日には横浜食物検疫所塩釜支所の検疫官による最終栽培地検査が実施されました。最終栽培地検査では、輸出対象の樹を1本ずつ確認し、病虫害発生の有無や果実への袋かけといった輸出条件が確認され、全ほ場(53ほ場)合格となりました。

9月下旬にはついにベトナムへ「二十世紀」4.5tが輸出され、加えて、新たにマレーシアへも1t輸出することができました。

今年も10月12日～15日にベトナムのホーチミン市で、10月26日～30日にはマレーシアのクアラルンプールで、JA・梨部会による販売促進活動が行なわれました。輸出の取組を通じて、産地の知名度・ブランド力の向上が期待されます。引き続き、関係機関と連携してこの取組を支援していきます。



写真 選果の様子

■「東北・北海道地域農業士研究会」が郡山市で開催されました！

地域の中でも優れた農業技術を持ち、若手農業者の育成に指導的役割を果たす農業者を各都道府県の知事が指導農業士として認定しており、現在全国で約1万人が活躍しています。

そのうち、東北・北海道地域の指導農業士が一堂に会し、講演や現地研修などを通じて資質向上と交流を深めるため「東北・北海道地域農業士研究会」が8月30～31日に郡山市で開催されました。



写真 講演に聞き入る参加者

研究会では斎藤健農林水産大臣、向山製作所の織田金也社長の講演、県内の若手生産者・若手料理人のパネルディスカッションが開催され、県内外から参加した300名が熱心に耳を傾けていました。

また、2日目には現地視察研修を行い、県内各地の先進的な生産現場の視察を通じ、福島の復興をPRしました。



写真 現地視察研修の様子

■ASAKAMAI887がまもなく出荷されます！



写真 ASAKAMAI887 収穫の様子

「こおりやま食のブランド推進協議会」は、郡山市産米の価値向上を目指し、新ブランド米「ASAKAMAI887(アサカマイ・ハチハチナナ)」の生産に取り組んできました。

今年は、市内の生産者21名が栽培に取り組み、7つの独自基準【食味値88点以上、タンパク質含量6.1%以下、ふるい目2.0ミリ、整粒歩合80%以上、特別栽培米、エコファーマー認定者、GAPに取り組むこと】の達成を目指しています。

基準のひとつであるGAPについては、FGAP(ふくしま県GAP)団体認証を目指し、GAPのチェック項目に沿った取組を行っています。取組の中では、作業場等の施設内の整理整頓や、栽培記録や帳簿類、生産工程の手順の整備等、多くの苦労があったそうですが、9月19日～20日に現地審査が実施され、10月19日の認証委員会での審査を経て認証となりました。取り組んだ生産者からは、「機械・資材の管理が行き届いて使いやすくなった。今後もよりよい農場づくりを行っていききたい。」等の感想が聞かれています。

今後農業振興普及部は、関係機関と連携して、安全で美味しい最高級の米づくりを支援していきます。